

全国民間保育園経営研究懇話会

経営懇ニュース 9月号 (No.226)

2022年9月29日

162-0837 東京都新宿区納戸町 26-3 保育プラザ 3F Tel03-6265-3174 Fax03-6265-3184 gsp10404@nifty.com

経営懇役員リレーエッセイ

太古の時代から生きのびてきた粘菌をみながら考えること

山形・はらっぱ保育園 阿部啓一

新型コロナ感染への「経済対策」で、県による「貸し切りバスの無償提供」企画がこの2年、続いています。「はらっぱ保育園」もこのバスを活用して、月山ネイチャーセンター（県立博物館分園）へのたびを年長・年中児たちが楽しんでいます。

ネイチャーセンターは、月山・湯殿山への「青海古道」の入り口にあり、女人禁制の出羽三山のなかで女性が訪れることのできた祈りの場所にあります。そんなセンターにつくと、指導員から「今日は何を見たいの?」と問いかけて、子どもたちと保育士は「粘菌!」。「えー、年金をもらっている人は、ここはいないよ。その年金ではなくて、粘菌ね。それはめずらしい。そんなリクエストは、なかなかないね。それじゃ、ブナ林のたんけん、沢での黒曜石・サンショウウオの赤ちゃんさがしもしながら、粘菌さがしもしもうか」。こうして、指導員を先頭に林の中へ。ブナ林の心地よさ、湧き水の冷たさ、木登り、虫探しなどを楽しむとともに、落ち葉の陰、朽ちた倒木の陰……いつもは通り過ぎるだけのところが、粘菌のすみかさがしです。歩みはゆったり、そして虫眼鏡で鑑賞します。

粘菌・・・植物でもあり動物でもある不思議な生物です。植物から動物への進化の途上にある長い時代を生き延びてきた存在。アメーバのように移動し、胞子で広がります。どこにでもいて、一定の湿度などの環境が整うと花開く存在。それが、種類も多く、美しいのです。高山に咲く花や太陽に輝く葉っぱ、いろんな鳥たちのささやきにも目や耳がひかれますが、足元のなにげない陰にある別世界です。指導員は「今は「粘菌女子」と言われる人もいる時代だけ。こんな生物が生き延びていることを思うと、生物の多様性ってすごいことですね。それも原始のままで生き続けている生き物がいることもすごいね」。

この粘菌、昭和天皇がライフワークとしてその研

究に取り組んでいました。旧憲法のもとで戦争を推進する中核を担いながら、その一方で、この粘菌をどんな気持ちで見つめていたのでしょうか。その粘菌愛はととても大きくなり、戦艦に乗って和歌山へ（軍事演習の視察もあったようですが）。和歌山には、当時、粘菌研究の世界的権威である南方熊楠氏がいて、会いに行ったのです。すると、南方氏はキャラメル箱に貴重な粘菌を入れてプレゼントしたというエピソードがあります。この南方氏は、明治政府がすすめた「神仏分離」の徹底に反対し、地域にねざして祭られていた神社の「鎮守の森」を守る取り組みに孤軍奮闘で取り組んだのでした。「鎮守の森」は手つかずで残された自然環境で、粘菌の生き延びた場だったこともあったのですが、人々のくらしに根付いていた心のよりどころを大事にすることにもつながることとなりました。ネイチャーセンターのある出羽三山も山岳宗教の盛んなところで、江戸時代、その隆盛のピークを迎え、山伏を中心に東日本に人々のネットワークを構築しました。その道案内で出羽三山を歩くとき、山伏は「その場・その木にあわせた祈りの呪文を唱え、全山を案内した」といいます。それが「神仏分離」のなかで、仏像の多くが捨てられる事態に。しかし、その一部は酒田市などの篤志家が保存し続け、最近、再び、出羽三山に戻されました。時の権力がすすめた「神仏分離」が100年かかって、もとに戻っていく姿です。

太古から生きてきた粘菌の「生命力」、時の権力に翻弄されながらも人々の心のよりどころが大事にされていく流れ……私たちの前には、「こども家庭庁の「家庭」が、どこから来たのか」「保育・子育てがもっとワクワクするようにしたい」「新型コロナに振り回されず、命を守ることをもっと大切にしたい」など課題が山積みですが、こうした時代の大きな潮流を感じ取って、元気に歩みたいですね。

Web 署名スタート

0・1・2歳の 保育料を無償化して ください

「新型コロナ」の感染拡大の中で、子育て世帯・子育てを目前にしている方々の経済的な「困窮」がとくに進んでいます。その中で「少子化」の進行は予想を上回るものがあります。

この「少子化」をくい止めるうえで、子育て環境の整備がこれまでも増して必要です。子育て世帯などの経済状況を考えると、誕生間もない時期の経済的負担を軽減し、子育てを親身に支える施設との出会いを気軽に利用できる体制をつくることが、緊急の課題になっています。

あわせて、来春には「こども家庭庁」がスタートするとのことですが、この行政体制の変化の時期に、施設によって負担の異なる「満3歳の保育料」を一本化し、父母の負担を軽減してください。

- (1) 「新型コロナ」感染により幼い子どもたちが影響を受けていることから子どもを産み育てることが以前にも増して負担となっています。「3～5歳児の無償化」の時のように早急に「0～2歳児の保育料の無償化」を行い「少子化」への歯止め実現し、子どもを産み育てる環境を豊かにしてください。
- (2) 現在、3歳以上児の保育料は「無償化」されていますが、保育園等では

「3歳児クラスの進級した春から無償」となり、認定こども園の一部や幼稚園では「子どもが満3歳になった月から無償」となり、施設によって無償化のスタートが違ってきます。これは、同じ国民であるのに違います。

「0～2歳児の保育料の無償化」により、この違いも解消されます。

以上の2項目について、下記の賛同いただける方はご署名をお願いします。あわせて、みなさんのまわりでも声をよせあい、その声を様々な形で国に届けましょう。

宛先	内閣総理大臣	岸田文雄	殿
	厚生労働大臣	加藤勝信	殿
	文部科学大臣	永岡桂子	殿
	内閣府特命担当大臣	小倉将信	殿

要望事項

0・1・2歳の保育料を無償化してください。

発信者 全国民間保育園経営研究懇話会

Web 署名

<https://chng.it/SbWGrDMPMy>



全国民間保育園経営研究懇話会ではカンパは集めていません。カンパの必要はありません。署名だけを大きく広げて下さい。

各地の活動

●保育情勢学習会

中四国経営懇

経営研究懇話会中四国ブロックでは、9月9日に Zoom での学習会を開催しました。講師に、保育研究所の逆井直紀さんを招き、保育をめぐる情勢をお話しいただきました。

学習会のねらいは・・・

2021 年度末に臨時特例事業が出され、2022 年 10 月以降公定価格に含まれる予定となっていました。この事業がどうなっていくのかを学習したいという声が会員からあがり、年度初めより研修計画にいていました。加えて、こども家庭庁の創設や保育所保育指針の「10 の姿」、0 歳児・1 歳児の定員割れの実態、そしてコロナ禍の中での各地・各園の対応等、講師の話と参加者の発言で深めたいと考えて、企画しました。

当日の様子

当日は、Zoom で 25 か所の接続がありました。県別にみると、岡山県 5 園、広島市 3 園、福山市 2 園、山口県 1 園、島根県 2 園、愛媛県 1 園、香川県 3 園、高知県 1 園、鳥取県 1 園から、園長、理事長、理事、主任の参加がありました。

参加者の感想は、次の通りです。

- ・表やレジメを見ながらの話が分かりやすかった。
- ・zoom 研修は、忙しい時でも出入りしながら参加できてありがたい。
- ・10 月からも処遇改善費が公定価格として予算化できるのはとりあえず良かった。
- ・今後、少子化が進み、保育園が子どもの取り合いをはじめると相手の思うつぼになる。みんな運動していくことが大切と感じた。

・高知合研は、地元の皆さんの頑張りがあってこそ成功だと思う。終わってからコロナ陽性者が増えたのはお気の毒だった。

・処遇改善費や助成金の話は難しくよく分らなかった（主任）。

定期的に交流会を持つと、質問や意見、発言もだんだんしやすくなるという声も寄せられており、引き続き学習の機会をつくっていききたいと考えています。

●会員アンケート実施

北海道経営懇

北海道経営懇では、7 月に会員園へのアンケートを行いました。コロナ第 7 波収束の気配が見えない中、工夫をしながら、子どもたち・職員の事を考えて奮闘されている様子が伝わる結果でした。一部をご紹介します。

Q. 昨年の対応から今年度、変更した対応はありましたか？

○日常生活で

- ・3,4,5歳児の配膳開始。
- ・クッキングを少しづつ始めている。
- ・送迎時の人数制限を少しゆるくした。保育内容はほぼ例年と同じ(給食時の対応は戻さない)
- ・プール活動を 3 年ぶりに再開。規模縮小で。
- ・クラス別保育➡通常保育へ
- ・職員の食事はこどもと一緒に食わず時間差で離れて食べるようにした。
- ・対策を講じてプール保育を実施している。
- ・昨年、運動会、発表会は 3 歳以上児からでしたが 2 歳児クラスからにしました。
- ・送迎時に保護者は玄関対応していましたが現在は、通常に戻した。保育園の中に入っている。
- ・7/15 日以降、保育所関係者の感染が拡大したため、健康チェック表の記入と家族の症状も記入してもらうようにした。玄関に非接触温度測定器も設置した。

- ・二酸化炭素測定器を設置し、どんな時に数値が上がるのかを体験して意識出来るようにした(休憩室には常時設置、扇風機での換気も行うようにした)
- ・送迎は玄関対応にしていたが、朝のみ玄関で受入れ、お迎えは時間帯がズレることもあり園内に入るようにした。

○行事で

- ・観客制限以外、運動会は元の形で行う予定。
- ・クッキングを少しずつ再開した。クラス懇談会や全体懇談会の実施
- ・年長キャンプ(お泊り会)の実施
- ・感染対策をしていくうえで去年より出来ることを少しずつ増やしていく予定。
- ・運動会、発表会は1歳児より参加(昨年度までは2才児から)
- ・昨年度運動会中止➡通常通り
- ・公開保育や運動会、もちつきなど、コロナ前は保護者参加でしたが、コロナ禍になってからは子どものみにしていた。今年度からは保護者参加にもどす
- ・4月と5月に各クラス30分だけだが、クラス懇談会を行いました。
- ・ピクニックお弁当を食べました。
- ・見るだけクッキングも取り入れながら、収穫した作物も食べるようにした。
- ・9月におこなう運動会、昨年は日程を分散して行っていたが、今年度は日にちは同じにし時間を分けて行う。懇談会等も昨年は中止にしたことも多かったがホールなどを使いクラスごと日程を別にして行っている。但し、感染が拡大した場合などは状況に応じて判断するようにしている。

Q. 保護者との関係で、課題と感じたり工夫した取組はありますか？

- ・マスク着用拒否の家庭があったため、保護者との会議で周知し、それぞれの考えを尊重しつつ、おむねの保護者の意向等を伝えてきた。
- ・短時間で個人懇談実施
- ・バザーや夏まつり、熱燗パーティが中止、懇談会や交流会も時期によっては中止となり、コロナ禍前を知っている保護者は物足りなさを感じ、知ら

ない保護者には今後どう伝えていくか課題。

- ・ごく一部だが、外出自粛(健康観察)期間に「〜で〇〇さんを見かけた」とか「…(ショッピングセンター等)に行っていたらしい」等耳にします。最後は個々のモラル頼み。色々お願いや啓発しても。
- ・親の会の活動(行事)が出来ず、これまでの親の会のとりくみの伝え合いが途絶え…
- ・今年度、1時間限定での懇談会を実施し、保護者同士交流できる場を作っている。
- ・コロナ感染拡大防止の観点から取りやめていた『誕生会の参加』『園外保育の参加』を保護者から求められ4者(父母会、後援会、職員、理事)で話し合いでOKとした。
- ・コミュニケーション不足を保護者から出されていた。コロナで大変なことも理解できるが園の良さがなくなっていると言われ続けた。保護者会場でそのことを話し今年度は取り戻す年にしたいと話し今頑張っています。
- ・小学生の兄弟がいる世帯で母子家庭の世帯が行事や懇談会(託児をしていた)への参加が難しいと言われることがあり、理解をして頂くよう対応しています(小学生の園舎内への出入りを遠慮して頂いています)。
- ・保護者とのコミュニケーションが取りにくいので玄関での送迎は学級閉鎖時のみとして、各クラス担当と話すようにした。
- ・短時間(各クラス1時間以内)の映像(こどもたちの園での様子)を使つての懇談会を年2回開催・個人懇談は必要に応じて実施
- ・3年ぶりのクラス懇談会で30分だけでしたが話が出来て皆さん楽しそうでした。ずっと話したかった事が伝わってきました。
- ・クラス懇談会が出来ない時でも個人面談はおこなうようにした。また、家族紹介を書いてもらいクラスごとに掲示して知りあう機会をつくった。
- ・保護者会との行事もほとんどが中止となり保護者と職員、保護者同士との交流が取れないことは大きかったと感じる。



Q. 職員のことと課題と感じたり工夫した取組はありますか？

- ・集まっての会議、納得できるまでの話し合い、たわいの無い話が気軽に出来る環境の工夫。
- ・保護者に対してと同様。決められたことだけでなく自分で創意工夫し取組むことが今後できるか不安。
- ・日々変わるコロナ対応を周知することが難しい。リーダー会議等では伝えているが…
- ・★そんなことをきっかけに職員の保護者に対する見方に影をおとすこともある。
- ・職員それぞれに感じ方は違うので、人間関係は難しいです。人間関係は変えられないけれど～変えるうえでどうかという方向で考えていけるように努力しているところ。
- ・『コロナ対応での疲弊』『感染への不安』等、取り除けない課題が多い。
- ・職員のやりたい保育の保障や研修は保障できるようにした。
- ・休憩時間の雑談も減り、食事会なども全くおこなっていないので、職員同士のコミュニケーション不足を感じている。
- ・園内研修を映像を見て学ぶ機会を多くして、共感、共有できることを増やしている。
- ・子どもたちより、職員、パートさんの方がコロナ陽性や濃厚接触者になると職員の配置が難しくなることがあった。
- ・各クラスの健康状態の把握は出来ているが、園全体での情報共有が出来なかったのが、記録だけでなく乳児、幼児、学童、支援センターより代表ひとりが出席する朝会を30分設け共有した。
- ・会議の人数制限や時間短縮で書面での確認が多くなったため何気ない悩みに時間をとることが出来ていないかもしれない。
少しでもリラックスしてもらえればと休憩室の模様替えをしたり観葉植物を置いたり、嗜好品のバリエーションを増やしている。
- ・新入職員の元気がない時、同期や1年先輩と昼会の時間におしゃべり会を企画した。少し距離が縮まった感じがしている。

➡自分たちでは一歩踏み出すのは難しいということなのかとあらためて思った。

- ・コロナ禍以前は休憩時に子どもたちの様子など何気ない会話の中で情報を共有する機会にもなっていたが孤食や黙食になることで普段の会話から共有する環境が減ってしまった。会議等で話もするが意識して伝えるということが以前より必要になってきたかと感じる。

Q. みなさんに聞きたいことはありますか？

- ・10年後までを見通した経営の現状と課題。
- ・園長交代のポイント
- ・定員割れや職員不足で園児確保が難しい中でどのように経営を安定させていますか？保育士の採用はどうしていますか？
- ・「定員割れ問題」に対する対応
- ・子育て中の職員もおり、夜の会議を減らしてほしいという要求がある。皆さんのところは、月にどの位、夜の研修や会議がありますか？

北海道経営懇ではアンケートもふまえ、9月に情勢学習会、10月に交流会を、オンラインで企画しています。

保育をめぐる情勢

●保育施設での事故

通園バスでの死亡事件や、認可外施設での死亡事故も起こっています。安全対策や監査の拡充が求められますが、国の姿勢は規制緩和の方向で動いています。現場での安全対策が重要ですが、同時に職員数や配置基準など、制度による問題点を現場から指摘する必要があります。

●待機児童減少、定員割れ問題深刻化

待機児童数は減少し定員割れ問題が深刻化する一方、隠れ待機児童の数は横ばいで、保育を必要とする子どもに、一定以上の質が確保された保育を平等に保障するには至っていません。そうした中で、保育制度の拡充をどう進めていくのかが課題です。

※全国各地の会員園から その7※
コロナ禍でも続けた

子どもの居場所

「西七創遊館」

—子ども食堂—

京都市 西七条保育園 久保 由紀子

創立50周年を迎えた保育園です。コロナ禍ですが皆でお祝い会ができる日常が戻ってきたらと計画を進めています。

50年間で卒園児は1,253人になりました。卒園した人たちは必然的にOB会に所属します。毎年、年度初めに、小学校1年生から高校3年生までのOB保護者が係の方と、OB世話人会議を行います。各年代から今、学校や地域で問題になっていることや悩みを出し合い、理解を深めています。その悩みや問題を元に11月に保育園、地域の方、OB会、保護者会と共に「地域子育て懇談会」と題して学習会や懇談会を行なっています。そこでは様々な悩みが出されます。

①親が毎日忙しく、子どもと向き合う時間がとれない。夜寝る時間も遅くなる寝不足で授業中や、学童からの帰り道、信号待ちで道路の上でも寝ていることもあった（親はその現状に気づかず後で知った）。

②毎日迎えのある保育園時代を過ぎると、父母共に一気に出張が多くなり、子どもは近くの友だちの家に泊まっていたり、祖父母に預けることが増えた。

③仕事で忙しく、お金がなくなっているにもかかわらず気づかなかった。（次男から親が聞いて発覚したなど）

④地域学童は人数がいっぱいで毎日違う習い事や塾に通わせ何とか過ごしている。

多くの事例が出される中で、少しでも何かできることはないかと考えました。幸いにも、分園は土曜日や夕方には施設が空いているので確保できると考え、子どもの居場所づくりの検討をしていきました。取り組みは、自分でご飯を炊けるように、作って食べる機会も大切にしたい、また地域の人も巻き込み工作など、じっくり作れるものなども取りくめないかと考え、平成29年6月より「西七創遊館」が始まりました。開始してはや6年になります。小学校低学年の子ども達が集う居場所（子ども食堂）は地域に広がり、キャンセル待ちが出るほどになっています。ここに来たら話が聞いてもらえる、ほっこりできる居場所になっているようです。地域のおばあちゃんにも手伝ってもらい、主任や給食室、園長がスタッフとして関わっています。仕事終わりの職員も駆けつけ子ども達に寄り添ってくれます。ハンバーグとサラダ、夏野菜カレーとサラダ、のり巻き寿司とすまし汁など、子どもと一緒に作って食べたり、持ち帰ったりしています。食事を作りながら、また食べながら何気ない会話から学校の様子やお家の様子が伺えます。

「○○ちゃん、いつも先生に怒られてはるねん」「もう学童行ってないねん」「授業中○○ちゃん、うろうろしてはる」「算数はわかるけど国語は苦手やねん、音読もおかあさん怒らはるし」「いつもご飯はお姉ちゃんと食べてる」そんなたわいのない会話の中に本音がポロリとでたり、ドキリとする話しもでてくる。なんら

かの SOS が出てきた場合はしっかりキャッチして焦らず、対応していけたらと思っています。

子ども達には、なんとなくの居心地のよさを感じてくれたら良いと思いつけてきています。

コロナ禍の中で子どもも大人もちょっとほっこりでき、自分の話を聞いてもらう場所が必要なのだと感じます。

コロナ禍でも続けた子どもの居場所「創遊館」を通して（S ちゃん的事例）

小学校高学年から学校に行けなくなった S ちゃん、中学校に入り、殆ど行かなくなりました。月に何回か別室で勉強を見てもらうことはあったようです。2019 年 11 月の秋まつりで出会い、声をかけてみました。「『創遊館』という取り組みをしてるんやけど S ちゃん、手伝ってくれへん」「私で良ければ・・・」と嬉しそうに答えてくれたのが始まりでした。その 11 月 30 日、S ちゃん（中 1）は来てくれるかなとドキドキして待っていると、入って来てくれたのです。「こんにちは、来てくれたんやね、うれしいわー」と言ってあまり声掛けはしませんでした。S ちゃんは大人のそばで見ているぐらいでした。その後、ほぼ毎回、参加しています。はじめは日程のお知らせの手紙を書き、家に届けていましたが、自分でホームページをチェックして自ら予定し、楽しみに参加するようになってくれました。慣れてくると食器の洗い物や掃除など、最後の片付けまで静かに手伝ってくれるようになっていきました。

（母からのメール抜粋より）

2020 年 3 月 中学 2 年生

手芸、イラスト、料理と色々と興味を持ってやってきましたが、食に関する勉強がしたいと感じたようで 3 月から遅れた勉強を取り戻すべく週 4 で塾に通い始めました。相変わらず、

学校には殆ど行きませんが自分なりにやらなければと思い立ったようです。

2021 年 3 月 中学 3 年生

S は無事に高校へ進学することになりました。なんとか皆と同じように高校入学できることになりました。いつも温かく見守って下さる先生方のおかげだと感謝しています。

創遊館に来て 4 年が経過しましたが、現在も毎回、制服姿で参加しています。高校生になり、毎日学校に通学できるようになった S ちゃんの姿を見て、人との関わり、環境によって人は変わる、社会生活においてお互いの権利を尊重し、お互いの立場を認め合うことが一番大切であると強く感じました。しかし現代を生きる子どもたちの事を考えると、我が国の教育の現状が心配です。

子どもの最善の利益を保障するために地域を含め、今後も活動を進めます。



子ども食堂での
製作と様子



お知らせ

●第18回主任セミナー

第18回主任セミナーを11月に開催します。
案内書の作成等の準備が遅れており、**案内書は10月初めになります**。申込期間が短いので、参加される方は、早めにお申込みください。

日時:11月11日(金)

**会場:新大阪ワシントンホテル
対面&オンライン(Zoom)**

企画:午前・シンポジウム 午後・分散交流会

参加費:5,000円(予定)

申込み締切:10/25

●Web署名

夏季セミナーで提起したWeb署名(2頁参照)。少しずつ広がってきています。

お願い文と玄関張り出し用のポスターを作成しました。同封しますので、ご活用下さい。

●処遇改善臨時特例事業の清算

保育士・幼稚園教諭等処遇改善臨時特例事業等の1/3の残額の清算を含んで、9月の給与を支給されましたか。国は、9月に支給していない場合は返金してください、と言っています。

当法人の一部でも清算を忘れていました。施設のある自治体に確認したところ「9月の明細と支給されていればよい」という事なので給与のやり直しと支払いを行います。各施設で清算がお済でないところは、自治体に確認する必要があります。

「10月に持ち越していい」のであればいいですが、そうでなければ、まだ9月なので処理は間に合います。がんばりましょう。

以上、お知らせまで。

大阪・あおば福祉会 岡千加雄(経営懇副会長)

※9月22日に送信したメールニュースより転載。

【経営懇・活動日誌】9月

○9月1日機関誌経営懇16号発行。

○9月11日(日)三役会議。その後、顧問会議。大阪の井関さん、東京の志村さんは会場に来て下さった。福岡の原田さんはZoomで参加。

○9月11日(日)夜、夏季セミナーの設営。配信のためのセッティング。

○9月12日(月)夏季セミナー。

○9月21日(水)主任セミナーに向けて担当役員で事務局うちあわせ。

○9月23日(金)全保連常幹・合研常任合同会議。

○9月26日(月)三役会。午後から役員会。厚労省・内閣府懇談に向けて要望書論議。こども家庭庁や架け橋プログラム等についても学ぼうと論議。また、職場の現状を語り合うリモート学習会の企画について検討した。

○9月28日(水)旅行社と、11月・1月の会場について、うちあわせ(事務局)

○9月30日(金)主任セミナー第2回実行委員会開催(Zoom)。

同封資料

①WEB署名お知らせポスター(玄関張り出し用)

②2022年度国会請願署名(見本)

③情勢関連資料～新聞記事紹介

●国会請願署名 11月は署名月間

署名用紙を同封しました。園・地域で取組む場合は1枚3円でお送りします(送料別途)。

11月は署名月間として、11/2国会要請行動、11/3保育大集会(日比谷野音)、各地で宣伝行動(11/20世界子どもの日など)が呼びかけられています。園・地域で、署名活動にとりくみましょう。